一般講演

A01 人為選抜したネッタイシマカ白色系統と黒色系統の個体群形質の比較

津田良夫（国立感染症研究所）

A comparative study on population characteristics of *Aedes aegypti* strain artificially selected for increasing or decreasing white scaling on abdominal tergum

Tsuda, Y.

インドネシア・スラバヤ市で2000年3月に採集されたネッタイシマカのコロニーから、白色個体と黒色個体の人為選抜を行い、10世代でスラバヤ黒系統とスラバヤ白系統が選抜された。選抜系統（10世代目）の個体群形質を27℃、相対湿度75%の実験室で調査した。スラバヤ白系統、スラバヤ黒系統の平均発育日数はそれぞれ9.6、9.3日で、この差は統計的には有意ではなかった。羽化した雌成虫を砂糖水のみを与えて飼育した場合の平均寿命は、スラバヤ白系統で35.0日、スラバヤ黒系統で36.0日であり、有意な差はなかった。新成虫に3-4日間隔で継続的に吸血させ、令別生存率と令別産卵数を調べた。平均寿命は雌雄ともに黒系統のほうが有意に長く、スラバヤ黒系統雌の平均寿命は51日、スラバヤ白系統の雌は39.3日であった。令別出生率と令別生存率から求めた純増殖率はスラバヤ黒系統で179.8、白系統で123.4であった。

A02 インドネシアロンボク島ムニンティング郡のマラリア媒介蚊について

前川芳秀¹，○高木正洋¹，津田良夫²，Subagyo, Y.³，Yoes, D.³，川田均¹，吉永一未¹，神原廣二¹（¹長崎大学熱帯医学研究所，²国立感染症研究所，³アイルランガ大学熱帯病研究センター）

Malaria vector situation in Meninting county, Lombok island, Indonesia

Maekawa, Y., Takagi, M., Tsuda, Y., Subagyo, Y., Yoes, D., Kawada, H., Yoshinaga, K., Kanbara, H.

ロンボク島ムニンティング郡のマラリア防除プロジェクト（JICAパートナーシップ事業）の媒介蚊調査結果を報告する。媒介は海岸後背地のラグーンから発生する*An. subpictus* に因ると教示されたが、全対象地域に亘る発生源探索と幼虫調査、成虫採集結果、並びにマラリア原虫検出結果、マラリア患者発生状況で以下が確認された。流行は沿岸部、山間部共にみられた。山間部の方が深刻である。山間部では急峻な谷川や岩石採掘跡の窪みから発生する*An. balabacensis*酷似種が伝搬する。沿岸部では*An. sundaicus*が主要伝搬蚊らしい。*An. subpictus* groupの関与も否定できないが主要媒介蚊とは考え難い。当調査地域の*An. balabacensis*と思しき種の季節的消長は雨季型ではなく、むしろ乾季型である。また斑紋の一部が*An. balabacensis*と異なり、*Leucosphyrus* groupの同胞種の可能性もある。同胞種の疑いは、*An. sundaicus*，*An. subpictus* についてもいえる。早急な分子生物学的吟味が必須である。